

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	竹活用プロジェクト事業	会計	一般会計	事業No.	448	施策順No.	57-008
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-2-2-26-8		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	林務課		
施策	57省エネ・新エネ活用の推進			事業期間	開始	22	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	荒廃している竹藪						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	荒廃している竹藪を整理し、未利用バイオマスである竹の資源としての有効活用を研究する。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		孟宗ヨーグルト製造試験研究(式)				1			
		孟宗ヨーグルト製造試験研究(式)				1	1	1	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	製造された飯田市産孟宗ヨーグルトの品質確認を行ったが、熟成期間が短いだけで問題の無いことが確認される。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	・竹粉製造機により孟宗竹を粉末とし、真空包装することで乳酸発酵を促進させ、飯田市産の孟宗ヨーグルトを製造し、家畜の飼料として活用するための製造試験研究を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	・竹粉製造機により孟宗竹を粉末とし、真空包装することで乳酸発酵を促進させ、飯田市産の孟宗ヨーグルトを製造し、家畜の飼料として活用するための製造試験研究を行う。	1 試験研究	1 一式
23年度実施計画	・竹粉製造機により孟宗竹を粉末とし、真空包装することで乳酸発酵を促進させ、飯田市産の孟宗ヨーグルトを製造し、家畜の飼料として活用するための製造試験研究を継続実施すると共に、養豚農家を選定し資料試験を行う。	1 試験研究 2 その他一式	1 一式 2 一式

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		663	372	630	
	計(A)		663	372	630	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B			372		

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境に配慮しエネルギーを工夫して大切に使う	施策の成果指標又はムトス指標	飯田市全体が排出する温室効果ガス排出量(トン・20年度算出実績は18年度のもの)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	役に立った。		
	後期に向けた課題	試験内容が継続される部分と、製品の飼料試験になり、評価の判断が主観的部分が大きくなるのが課題と考える。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	初年度であるため、試行錯誤の段階である。		
	後期に向けた課題	飼料としての確認方法の設定を構築する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	現在販売されている製品より安価で農家に販売することが飯田市中で製造する意味があるため、竹藪伐採整理事業で発生した孟宗竹の有効利用を行った。		
	後期に向けた課題	前期と同様にコスト削減意識を持ち、伐採・搬出コストの削減を図る		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	荒廃している竹藪の整備を、製造販売までの一体的な流れの中で実施可能となりうるかの試験も含まれており、大きな流通システムには乗らないが、地産地消の観点からも新たな事業展開を図るためにも、積極的に関与が必要と思われる。		
	後期に向けた課題	H23年度緊急雇用創出事業が終了してしまうため、竹の伐採・搬出コストの削減が問題となる。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	主体は荒廃した竹林であり、整備と伐採された竹の有効利用の道筋が示せた。 このような試験研究段階では、市が積極的に関与し、産業として成立可能かどうかの判断をすべきである。		
	後期に向けた課題	前期と同様に積極的に関与し、竹の有効利用の一環として試験研究を実施する必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	1年目であり慎重に製造試験が実施できている、今後も製造方法をマニュアル化し、安定供給への課題となる孟宗竹の伐採・搬出		
	後期に向けた課題	産業として確立と、養豚農家が地域産の飼料として安心して使用できるように製造試験の継続と、製品の品質試験が必要と思われる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------